

⑫薬師寺と宇野浩二 やくしじょうのこうじ

境内に大きなイチヨウの木があり、本尊の薬師如来は乳もらいの薬師とも呼ばれ、産婦がお参りすると乳がよく出るといわれています。摂津源氏で知られる多田満仲の四男、美女丸がこの地に開いたと伝えられ、山号を美女山といいます。水上勉の師匠であった「思い川」「枯木のある風景」などの作品を書いた作家宇野浩二は、明治42年若江小学校の代用教員として働き、薬師寺に下宿していました。

⑬蓮浄寺 れんじょうじ

慶長2年(1597)頃、当寺三代目正圓の頃、若江城の余材を利用して堂を建てたと伝えられています。本堂裏の墓地に永禄2年(1559)の銘がある十三仏板碑がまつられています。高さ104cm、幅47cmの舟形石に3列4段で十三仏が刻まれています。この板碑が彫られたころ、若江は畠山家の家督争いのため約百年間戦乱の地となっていました。現世の安泰と来世の極楽往生を願い建立されたものです。

⑭飯嶋三郎右衛門墓 いいじまさぶろうえもんはか

飯嶋三郎右衛門は、高井田村の生まれで、幼少の頃より武芸に優れ、永禄11年(1568)ころ信長が河内を制圧したとき、それに従いのち秀吉、秀頼に仕え、元和元年(1615)大坂の陣に際しては、木村重成軍に加わり若江にて討死しました。三郎右衛門の子孫が岩田村に住みこの墓を建てました。

⑮若江の忠霊塔 わかえのちゅうれいとう

昭和18年12月8日中河内郡若江村の地元有志数名が土地提供し、建設したものです。明治27・28年の日清戦争、明治37・38年の日露戦争、大正3年の第一次世界大戦、昭和6年の満州事変、12年の日華事変、16年の太平洋戦争に及ぶ戦没者の忠霊塔です。大阪府内でもこのような個人の尽力による忠霊塔の例がない。

⑯若江城址碑 わかえじょうあとひ

若江公民館の東横に大正8年大阪府が建てた「若江城址」碑、南側の楠の横に「社」と刻んだ巨石があります。この付近を中心として南北400m、東西300mぐらいの範囲が若江城跡です。若江城は南北朝時代に河内に進出し、河内国守護職になった畠山氏によって築城されました。15世紀の中ごろ、畠山氏の家督をめぐる争いは戦国時代の口火となりました。天正元年(1573)天下統一をめざす織田信長は、足利氏最後の将軍義昭を追って若江城を攻めています。天正9年に宣教師ルイス・フロイスの手紙に「若江の中央を通ったが此所には今城もなく・・」と記されています。前年堺の茶人によって若江城で茶会が催されたことが茶会記にありその間に若江城が廃城になったことがわかります。※詳細は右面に記載

⑰美女堂氏遺愛碑 びんどうしいあいひ

多田満仲の四男、美女丸の子孫で若江の土豪、美女堂氏が武士となって遠江国掛川藩主太田家に仕官した来歴を記した石碑です。碑文によれば孫六家の勝興から5代を経た勝喜が若江の勝興旧宅にあった老いた松を見てこの碑を建てたことが記されています。太田資次が大坂城代に在職中、上若江・下若江両村の領主となっているところから、歴史的事実と考えられます。

⑱蓮城寺 れんじょうじ

日蓮宗の寺院で、正保元年(1644)焼失。いろいろな宗派の遊行僧が再興をはかるがならず、元禄6年(1693)、蓮性院日相上人が再建しました。木村重成の位牌がまつられています。

⑲若江鏡神社 わかえかがみじんじや

延喜式内社、祭神は大雷大神、足仲彦命、息長足姫命、江戸時代には塚本大明神と呼ばれていました。本殿前と拜殿の間に雷の手形石と呼ばれる石があります。「文徳天皇実録」には「斉衡元年(854)授河内国大雷火明神従五位」とみえます。本殿は極彩色を施した三間社流造です。雨乞いに使用された元禄11年(1698)奉納の大般若経600巻とも市指定文化財です。鳥居東の参道入り口両側には、雨乞御礼として享保18年(1733)七月七日に三郷が寄進した高さ約3mの灯籠、鳥居を入れて4番目にも明和6年(1769)七月八日に三郷が寄進した雨乞御礼の灯籠などがあり、雨乞いに霊験あらたかであったことがわかります。

⑳十三街道道しるべ じゅうさんかいどうみちしるべ

鏡神社の鳥居前の道を南に行くくと三叉路の角に道しるべが二基あります。一基は享和3年(1803)造立の大阪市内の深江で暗越奈良街道から分岐して長堂・荒川・上小阪のいくつかの村をとおり生駒山の十三峠(八尾市)を越えて、竜田・長谷寺へ通じる十三街道の道しるべです。

㉑山口重信墓 やまぐちしげのぶはか

元和元年(1615)5月6日大坂夏の陣若江の戦いで徳川方武将山口重信は豊臣方の武将木村重成軍と戦い、両将とも討死しました。山口重信の墓は、死後33回忌に弟の山口弘隆によって建てられました。碑は高さ3.33m、幅92cm、亀趺(亀の背)上に建っています。正保4年(1647)の建立です。銘文には若江の戦いのようすが幕府の大学頭林道春(羅山)の文章、石川丈山の篆刻により刻まれています。※大坂の陣・若江の合戦については右面

㉒木村重成墓 きむらしげなりはか

木村重成は、元和元年(1615)大坂夏の陣若江の戦いで討死した豊臣方の武将です。以前は山口重信の墓と向かい合っていました。第二寝屋川の工事により現在地に移されました。

㉓長沢辻地蔵 ながさわのつじじぞう

この場所は長沢の辻と呼ばれ、現在はわかりにくくなっていますが南北の道が平野の大念仏寺に通じる融通道の一つです。地蔵菩薩立像は高さ109cmの花崗岩に舟形の彫りくぼみをつくり、像高65cmの立像を半肉彫りし、康永元年(1342)の年号や長沢辻堂などの文字が刻まれています。市の文化財に指定されています。

発行 / 東大阪観光協会

作成 / 2014年10月
更新 / 2020年3月
※施設等の情報は変更されている場合がありますのでご了承ください。

■ 東大阪市観光振興事業 ■



河内名所図会1801年(享和元年)

若江の合戦

若江の合戦は、東高野街道を南下して道明寺方面へ進出をくわだてる関東の主力部隊およそ12万を側面から攻撃してこれに大打撃を与えようと、5月6日の早朝大坂城を出発し、豊臣方の長宗我部隊5000は八尾で徳川方先鋒の藤堂高虎隊5000と、豊臣方木村重成隊4700は若江で徳川方井伊直孝隊3500と激突した。若江での戦いは玉串川の西方にある小堤上や田間のあぜ道上での小部隊同士の熾烈な戦いであった。互に勝敗を繰り返し、早朝から昼過ぎまで数時間戦われた。豊臣方飯嶋三郎右衛門は徳川方山口重信の従兵と槍を合わせ討取るが、山口重信に槍で突かれ倒れた。木村重成は山口重信にかかり、槍で馬上から突き落とした。山口重信と飯嶋三郎右衛門の二人とも従者にかつがれて退去したが絶命した。この戦いで豊臣方は木村重成・増田盛次をはじめ900余人を失ったが、藤堂隊も重臣6名を含めて兵300余人、井伊隊も武将数人と兵100余人を失いました。この日午後6時頃徳川家康・秀忠は枚岡に至り、豊臣方の薄田隼人、木村重成らの首級を実検した。

若江城

河内平野のほぼ中央部に位置する。古代には郡衙という役所や寺があり、交通の要所で栄えたところ です。若江城は畠山氏の守護代の居城として、南朝ににらみをきかすために築城されたものと考えられます。若江城は守護所として河内国の政治的中心地でした。畠山家は足利義政が8代将軍になったころ、幕府きつての実力者でした。しかし、家督相続争いがおきこれが応仁の乱の原因の一つとなりました。下って永禄11年(1568)9月織田信長は三好義継を河内北半国守護とし、若江城主とした。天正元年(1573)11月将軍足利義昭が宇治の槇島城で織田信長に敗れ、義昭の妹婿であった義継がかくまいますが信長軍に攻められ自刃する。若江城は義継の家来であった池田丹後守らにまかせた。池田丹後守はキリシタンとして知られた人物で、若江にクルスとか大白などの字名が残っている。天正8年(1580)閏3月5日、織田信長と本願寺顕如との和議が成立する。ここに石山本願寺をめぐる攻防は終止符を打ちます。若江城はこのころまで信長方の本願寺攻撃の拠点として利用されていました。しかし、天正8年(1580)5月22日から12月16日の間に廃城となり八尾に移りました。石山本願寺の攻撃拠点としての若江城の役目が終わり、廃城して八尾に移ったものと考えられます。城は東西180m、南北190mの主郭(本丸)をもつ城で、礎石建物、塙列建物などが見つかっています。南西には瓦葺き、白壁の隅櫓が建っていたことがわかっています。外堀まで含めると東西600m、南北700mあります。

各神社のお祭り

祭礼日とだんじり曳行日は異なることもあります。

●八剱神社 菱屋東2-11 夏祭り7月15・16日 秋祭り10月15・16日 ●三十八神社 西岩田1-8-21 夏祭り7月13日 秋祭り10月13日 ●石田神社 岩田町4-11-13 夏祭り7月15日 秋祭り10月15日 ●若江鏡神社 若江南町2-3-9 10月10・11日

※司馬遼太郎さんの街道をゆく「河内みち」には鏡神社のだんじりの様子が描かれています。

岩田の墓市

8月11日夕方から若江岩田駅南北の道は歩行者天国になり、多くの露店で賑わいます。昔は岩田墓地の墓市は大阪商人が持ってくる衣服や農機具と近在の農家の農産物を交換したり、お盆の準備の品物を揃える市でした。最近
は岩田本通り商店街振興組合主催で地域の人たち手作りの「岩田墓市ちびっこ夜市」も賑わっています。